

2025 年度春学期教員アンケート集計結果報告書

FD・SD 委員会

1. はじめに

回答者数は 73 名であり、2024 年度春学期教員アンケートの回答者数が 109 名であったことと比べると、非常に低い回答率となった。また、「学期末の「学生アンケート」の集計結果はあなたの授業の振り返りに役立っていますか」という問いに対する回答は、以下の通りである。「とても役にたっている」「概ね役に立っている」と回答した人の割合は 71%であり、回答者の 7 割が授業アンケートを意義のあるものとみなしていることがわかる。なお、「あまり役に立っていない」「まったく役にたっていない」とした人の理由として、回答数が少ないことが多く挙げられていた。

	度数	%
とても役に立っている	12	16
概ね役に立っている	40	55
どちらともいえない	17	23
あまり役に立っていない	2	3
まったく役にたっていない	2	3
合 計	73	100

表 1 学生アンケートの集計結果は授業の振り返りに役に立っているか

本報告では、学生の理解を助けるための取り組み、およびそれによって改善できたこと、今後の課題をまとめていく。なお、本アンケートは記述式の回答が多いため、どちらかと言えば面倒なものであるが、多くの先生方に丁寧な回答をいただいたことに感謝したい。

2. 学生の理解を助けるための取り組み

ここでは「学生の集中を高め理解を助けるために、どの授業でどのような取り組みをしましたか。また、それらの取り組みに対する学生からの評価はあなたの期待していた水準に達していましたか」に対する回答を中心にまとめる。

(1) 講義科目全般

講義科目全般では、集中力を維持するための時間配分、提示する資料を工夫していか
に興味を持たせるか、学生との双方向コミュニケーションなどにおいて、様々に工夫
が凝らされてきたことがわかる。以下に、回答としてあげられた取り組みを示す。

①時間配分と提示する資料の工夫

- ・同じスタイルの授業を30分以上続けない（30分以上一方的に話し続けない）／ 複
数のメディアの活用（動画、パワポ、配付資料など）／学生にアンケートに回答してもら
って回答紹介
- ・掲示物の工夫。映像・音楽の利用。注意を向ける工夫ができたと思う。
- ・毎回のイントロダクションとまとめ、導入で前回の振り返り、真ん中の時間帯に動画を
挟む
- ・前回の感想レポートの紹介と振り返り、動画の活用、外部ホームページの活用を行
っている。
- ・専門科目において最近のトピックスや海外の動向を紹介するなどした。
- ・講義形式の授業ではレジュメを毎回配布している。資料については一定の評価があるよ
うであった。
- ・授業の後半にビデオを視聴し、飽きさせないように努めた。
- ・前回の復習から開始し、関連トピックスを取り上げることを実施した。
- ・授業テーマと関係する時事問題を扱った動画やニュースを流して授業のつかみとし
たり、学生からの発表を取り入れて単調にならないよう時間配分に留意した。
- ・講義科目ですが、授業の中盤に簡単にできる実習を取り入れたり、manaba の掲示板に
書き込みをさせるようにしています。（105分授業への以降のテストとして、本年度、
実施しました）
- ・講義の事前動画の提示と授業録画動画を公開した。学生からは良い反応が得られてい
る。
- ・2科目とも歴史系の科目であり、通史を説明するだけでは興味を持ってもらうことは難
しいので、具体的な企業、産業、経営者、出来事に焦点を当て、説明するようにしてお
り、この点は思った以上に効果があったと思われる。

②クイズ、穴埋め

- ・冒頭で前回の振り返りをクイズ形式で行うとともに、毎回の授業後アンケートに対する
コメントを行うことで、学生のモチベーションを維持するよう努めた。
- ・クイズを出しても回答者が決まってしまう不活発になるクラスがあった。グループで紙
に書かせる手法をとり、全員がクイズに関わる状況を作った。やや改善。
- ・講義の時間を区切り、小テスト、講義、振り返りと一つ一つのコンテンツを短時間にす
ることで、集中力の維持を狙った。また、レジュメについて、従来穴埋め形式のものを紙
で配付していたが、穴埋めをやめ、PDF で配付に変更した。

・講義科目において、①前回の復習、②授業資料の穴埋め、③授業後の課題、を盛り込みました。これらの取り組みに対する学生からの評価は、概ね私の期待水準であったと認識しています。

③双方向コミュニケーションの工夫

- ・学生の意見を個別に聞くなど、双方向の授業をおこなった。
- ・いずれの授業についても、分かりやすい説明や協働、内容の工夫や難易度の配慮など。
- ・基本的に毎回、前回の振り返りを行っている。また、毎回学生にコメントを書かせ、そのうちのいくつかをピックアップして次の回の冒頭で紹介している。書かせていく内に書く内容の質と量が改善されていくことが見て取ることができる。
- ・一言で対話。言葉を交わす、目線や視点を合わせるなど基本的な動作を繰り返し実践している。授業科目は年々受講生が増加し、毎回の出席率 75%を維持することができた。
- ・シャトルカードの導入をすることで、しっかり授業を聞く学生が増えた。

＊シャトルカード：「学生からの質問」に対し、「教員からの回答」を付けて返却できるような形にしたカード。教員・学生間の双方向コミュニケーションを促すツールとして利用される。

・学生の集中を高め、理解を助けるために、教員が一方的に話すだけでなく、対話（双方向）を多々取り入れている。また、具体例を示す・何度も繰り返し説明するといったことも取り入れているので、学生アンケートの結果からも、学生からはおおむね授業がわかりやすいとの評価を得られていると思う。

・授業の途中や最後に簡単な設問を出題したり、授業に関連する最新のトピックスを紹介したり、アニメコンテストを実施した。

・配布資料を用い、学生が個々で問題に取り組んだ後に、解答を確認し合うことにより、集中力及び学生間のコミュニケーションの機会を増やすよう試みた。ある程度の成果が上がったと思われる。

・小テスト、振り返りコメントなどを毎回不規則に取り入れることで、変化を加えて飽きないようにさせている。積極的に挙手しての発言を促し、加点方式で成績に反映させることを事前告知し、実践し、集中力を持続させている。

・毎授業での要点・感想の提出させたことで、学生にとっても授業を振り返るよいきっかけになったと同時に、教員も学生の理解度や難しかった点などを把握することができ、それをもとに授業内容を調整することができた。

(2)ゼミ及び少人数の授業

①グループワーク，ペアワーク

- ・ペアワーク活動など学生主体の活動をすることを心掛けた。
- ・なるべく学生が参加して楽しみながら学べる方法を取り入れた。学生からのコメントでは、「協力し合って楽しく学べた」という意見が多かったのでこれからも続けて行こうと

思っている。

- ・協働学習を取り入れて指導を行っています。多くの学生がグループワークを好んでいるため、効果的だと思います。

②主体的参加，対話を促す

- ・ゼミ形式の授業では、学生を主体にできるだけ双方向の会話を心掛けている。
- ・ゼミナールでの学生によるプレゼンテーションの際に、発表者が他の学生の中から指名をして、質問をしてもらう形式をとった。一定程度、プレゼンを聞くための集中力と、質問を考えるための思考力を養うことができたと考える。

(3)語学，コンピュータ，スポーツなど

- ・私が担当しているのは4クラスだが、それぞれの個性に合わせて、少しずつ内容を変えた。授業のアイスブレイクとして、朗読を取り入れて、積極的になってきたクラスもある。そのクラスの評価は、予想していたものより良かった。また、2クラスで10分間、好きな本を選んで読む多読を取り入れているが、そのクラスは、集中力がついてよかったと思う。多読を取り入れたクラスでは、学生アンケートで感想を書いてくれた人が多かった。

- ・授業構成をパターン化（宿題や課題小テストのManabaへの入力提出、フィードバックと解説、本日の学習と復習、ペアあるいはグループ活動等）して、受講生が予習・復習しやすく安心して受講できるようにしている。また、ペアワークやグループワークに関しては、最初に各自が課題に取り組み話し合いの土台を作ることによって、よりスムーズで積極的な意見交換が可能になるようにしている。これらの試みは概ね好評である。

- ・動画を使つての解説、個々人に上達状況を個別フィードバックし、再びチャレンジさせるくり返しの中で技術の習得を目指している。学生からの個人的なアンケートで、くり返し練習ができて伸びることができていると多数から記載があったため、おおむね期待する水準に、教員も学生も達しているものと理解している。

- ・サバイバルイングリッシュを取り入れた。反応よし。

- ・コンピュータ演習科目であるため、例えば、ある操作について単に説明するだけではなく、実際にその操作を行った。水準については、期待の6割程度と感じた。（情報リテラシー演習）

- ・語学の授業では、当初より座席を名簿順の指定座席にしました。

(4)その他

- ・講義でもゼミでもスマホ依存の弊害を周知し、多少は、授業中のスマホ利用が減ったように思われる。

3. 授業改善の試みによる成果と課題

ここでは、各教員の授業改善によって得られた成果と課題を簡単に列挙しておく。

(1) 留学生

・今学期から動画を Panopto 利用として、留学生等に配慮した字幕機能を利用した。
新松戸校舎の学生は留学生が多いので、授業の中で用いる専門用語の逆びき説明などを Panopto 動画に文字おこしを実施するなどして学習支援を実施したことは留学生の学修モチベーションの向上に貢献したと思う。また、逆に LMS によるオンラインレポート提出では不正が多発しているので、アナログ化して紙での提出を復活したが、そのおかげで、学生のレポートのコピペ等を明確に確認できた。

(2) 1 年生の指導

・今年度の 1 年生に関しては、例年より学習習慣や文法理解度に問題がある受講生が多く見受けられ、期待した水準までは達していないと感じる、
・グループワークを多く取り入れている。1 年ゼミではこのスタイルになじめない学生が多いと感じている。他の学年のゼミや講義科目では能動的に参加する学生が多いが、1 年ゼミでは受動的な学生が多く、なかなか能動的な姿勢になっていかないので期待していた水準に達しているとはいえない
・発表およびその後の質疑応答・意見交換を重視し、挙手がない場合は指名して発言してもらうようにしています。1 年生については、挙手が極端に少ないのでほぼ指名でしたが、その 1 年生の評価が一番低かったです。能動的に学習できる姿勢が身につけていない者が、特に入学当初には少なからず見受けられるため、止むを得ないものと考えます。

(3) 遅刻・欠席，試験，

・コロナ以前より学生の遅刻や欠席に対するハードルが低くなっていることが問題であった。そのため、引き続き今学期もガイダンスや授業内活動を通して、授業開始時間前に着席していること、宿題や課題の Manaba への入力提出とその成績が評価につながることも強調してきた。しかし残念ながら、未だ改善したとは言えない状況である。特に 2 年生のクラスにおいて、一度も出席していない学生や遅刻が続く受講生が数名在籍していた。
・龍ヶ崎校舎の学生は部活動などで欠席が多いので、そのような中でも学びの集中が途切れない工夫としてこれまで同様 LMS や Panopto 動画を活用し、一定の成果は得られたが、1 年生履修者が多く、その活用方法についての丁寧なガイダンスがさらに必要である結果となった。
・期末試験に際しての説明事項について、前回よりも丁寧に学生に伝えることができた。その結果、期末試験にあたっての学生の事前の準備も、以前よりも円滑にできるようになったものと考ええる。

(4) オンデマンド、スマホ、翻訳アプリ

- ・毎回アンケートで回答していますが、オンデマンド授業の小テストで不正が横行しています。オンデマンド授業についても、対面での試験実施を認める必要があると強く思います。

- ・学生の理解度を確認しながら授業を進めていると書いたと思うが、最近ではアプリによって英文和訳などが簡単にできてしまうので、その意味では学生が本当に理解しているかがわかりづらい。真面目に授業を受けている学生には一定の効果はあったと思う。

- ・スマホで遊んでいる学生が多かったので、スマホの利用に関してはもう少し厳しく注意事項をシラバスに書き、スマホは利用しないアクティビティーを多くした。その結果、スマホで遊ぶ学生は減ったように思う。

(5) 各授業における努力

- ・「ゲストスピーカーとして実務家を招き、授業で学んだ知識をより実践的に考える機会を設けたいと考えています。」と書いた。春学期はゼミに1名呼んだが、学生の興味関心を惹いたのかは心許ない。3回目の授業での招聘のため、まだ教員との信頼関係ができる前であり、学生も意義をよく理解していなかったかもしれない。秋学期にも何名か呼ぶ計画をしているので、十分に打ち合わせをして臨みたい。

- ・「TOEICの授業では、もう少し改善の余地がありそうです。語句・表現ひとつひとつに関わるような情報を、できるだけ細やかに提示できるといいと思います。がんばります。」と記入しましたが、できるだけホワイトボードを活用し、学生さんの反応を確認しながら、丁寧に説明するように心がけました。今回は人数も少なかったため、とても良い数値が得られました。良かったです

- ・前回のアンケートでは、Comprehensive Englishの授業で、基礎的な単語の確認と定着を図るため、小テストを行なう回数を増やしたいと記入しました。今年度は、実際に前年度よりも回数を増やし、基礎的な単語の確認に重点を置いて小テストを行ないました。試験の結果、基礎的な単語を覚えていない学生が予想よりもたくさんいることがわかりました。

- ・スキルの違い、習ってきた言語の違い等をどのように埋めて、更新し続けるITスキルを身につけていくかという問題がすべて解決できたとは思わないが、課題を多くこなしていくことによって自然と身についていったと思われる。春学期はWord、PowerPointと日本語使用が必須だったので、留学生は大変だったと思われるが、真面目に課題をおこなっていて、日本語力の向上にも少しは役だったと思う。

4. まとめ

以上のように、回答数としては少数であるが、本学の授業改善事例として大いに意味があるアンケート結果であると言える。また、多くの本学教員が真剣に授業改善に取り組む姿勢もうかがわれる。